

「令和6年度教育研究構想」

1 研究主題

根拠をもとに考えを説明することができる児童の育成

～考えたい！聞きたい！話したい！～

2 主題設定の理由

（１）学習指導要領から

「数学的な見方・考え方（事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること）を働かせ、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること」が求められている。

（２）昨年度までの児童実態から

本校では、昨年度まで生活科・総合的な学習の時間において「主体性を発揮する児童の育成」という研究主題のもと児童の主体的・協働的に学ぶ力の育成に取り組んできた。他者と協働して学ぶ力がついている一方で、問題に個人でじっくりと向き合い、考えることができていないという課題が挙げられた。分からない問題があるとすぐに諦めて他者を頼ってしまう児童が多いため、児童が考えたいくなるような教材づくりや環境設定、授業の構成、ファシリテートを行う必要がある。

また、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解き、解き方を説明したり自分の考えを表現したりすることができていないという課題も挙げられた。児童が根拠をもとに自分の考えをもち、それを説明することができるように指導する必要がある。

（３）研究主題について

根拠をもとに考えるということは、正しいことを見いだしたり、見いだしたことの正しさを確かめたりするうえで欠くことのできないことである。それは、ある事実の正しさや自分の判断の正しさを他者に説明する際にも必要になる。根拠をもとに考えを深め、深めた考えを説明することで、児童の数学的に考える資質・能力が高まると考えられる。また、そのためには児童の「考えたい！聞きたい！話したい！」という学習へ向かう意欲が必要となる。そのため、この研究主題を設定した。

3 研究仮説

学習過程において、深い教材研究を行い、教材づくりや環境設定、授業の構成、ファシリテートを行ったりすれば、児童が根拠をもとに考えを説明することができ、児童の「考えたい！聞きたい！話したい！」という気持ちを引き出すとともに数学的に考える資質・能力を高めることができるであろう。

4 取組

- （１）既習内容と比較させることで学びをつなげ、根拠を持って考えさせる。→授業後に検証する
- （２）全ての児童が自分の考えをもち、それを説明すること（発言やノートへの記述等）ができるようにするための教材づくりや環境設定、ファシリテートを行う。→授業後に検証する
- （３）（１）（２）を指導案に表記する。
- （４）単元構想シートを作成することで、単元全体の見通しをもって授業の構成を行う。
- （５）児童が見通しをもって学習に取り組むことができるように学校全体で授業スタイル（三和っ子ナビの活用）を統一する。

5 検証方法

(1) 学力調査

- 全国学力調査、標準学力調査において全国（県）平均を上回るとともに、正答率が30%未満の児童を0%にする。
- 算数科における各学期のテスト到達率80%以上の児童を学級全体の80%以上にする。また、30%未満の児童を0%にする。

(2) 児童アンケート

1	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
2	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
3	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
4	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
5	算数の勉強は好きだ。
6	算数の勉強は大切だ。

※全国学力調査質問紙調査より抜粋

6 研究方法

- ・PDCAサイクルに基づき、授業実践と理論研修を中心に研究を行う。
- ・提案授業は次の流れで行う。

P 指導案検討→D 授業参観→C 事後協議→A 課題を踏まえて次回の提案授業へ

・提案授業の協議の視点

- 児童は、根拠をもとに考えを説明することができていたのか。
 - そのために、どのような指導・環境設定・授業の構成・ファシリテートを行ったのか。（授業者）
 - 根拠をもとに考えを説明することができていたとすれば、どのような要因が考えられるか。（参観者）
- 児童は、意欲的に自分の考えを表現していたのか。
 - そのために、どのような指導・環境設定・授業の構成・ファシリテートを行ったのか。（授業者）
 - 意欲的に自分の考えを表現することができていたとすれば、どのような要因が考えられるか。（参観者）

